

ファイナンシャル・ウェルビーイングの向上でより幸せな人生を

Key words

関西大学 徳常泰之ゼミナール 2 班

- ①ファイナンシャル・ウェルビーイング
- ②金融リテラシー
- ③金融教育

川本 木村

報告要旨

現在、世界中でウェルビーイングという概念が注目されている。ウェルビーイングとは「身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念」で、「多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念」である（文部科学省「中央教育審議会教育振興基本計画部会（第 13 回）会議資料」）。私たちはウェルビーイングの五つの構成要素である仕事、地域、社会、身体、お金の中で特にお金に着目した。

ウェルビーイングに関する構成要素の中でも特にお金に関係する要素についてはファイナンシャル・ウェルビーイング (Financial Well-being) と呼称され、「自らの経済状況を管理し、必要な選択をすることによって、現在及び将来にわたって、経済的な観点から一人ひとりが多様な幸せを実現し、安心感を得られている状態」と定義されている（金融経済教育推進機構 (J-FLEC)）。各機関によって定義に異なる部分があるが、「現在と将来についてお金の管理ができていること」、「安心感を持っていること」、「選択肢を持っていること」などが定義に含まれている共通項として挙げられる。お金について適切に管理できること、安心感を持っていること、また選択肢があることは人々の人生を豊かにすることが想定される。ファイナンシャル・ウェルビーイングが高くないことが働き手の生産性を下げ経済的な損失に繋がっているとされている。

ファイナンシャル・ウェルビーイングを高める対策として、私たちは金融教育について注目した。ファイナンシャル・ウェルビーイングと金融リテラシーの高さに一定の相関があることから金融リテラシーの向上を目的とした金融教育を行い、最終の目標としてファイナンシャル・ウェルビーイングの向上を目指すものである。現状の日本の高等学校進学率 98.8% であること、また金融というテーマであることによる相応の理解力が求められるという理由から高校生に対してアプローチを提案する。

2022 年より高等学校の学習指導要領が改訂され、金融教育を盛り込むこととなった。しかし、現状どのような金融教育が行われているかは各高校や各教員に委ねられている側面があることも否定できない。アンケート等の定量的な調査結果も交えて研究報告する。

ファイナンシャル・ウェルビーイングという耳馴染みのない言葉、概念について、これから先、どのように普及、促進するかより良い具体案について考えてゆきたい。